



くわえん  
白らオモ  
ちヤを  
女!!

**美里繚子**

MISATO RYOHKO

**原作 中村晴子**

NAKAMURA HARUKO





お気をつけて



香坂さん…!



運転手の片山さんが  
体調を崩して  
早退したので

代わりに  
迎えに行くよう  
先生から頼まれて



なぜ…  
あなたが







そう…ですか




深雪さん



…あ…



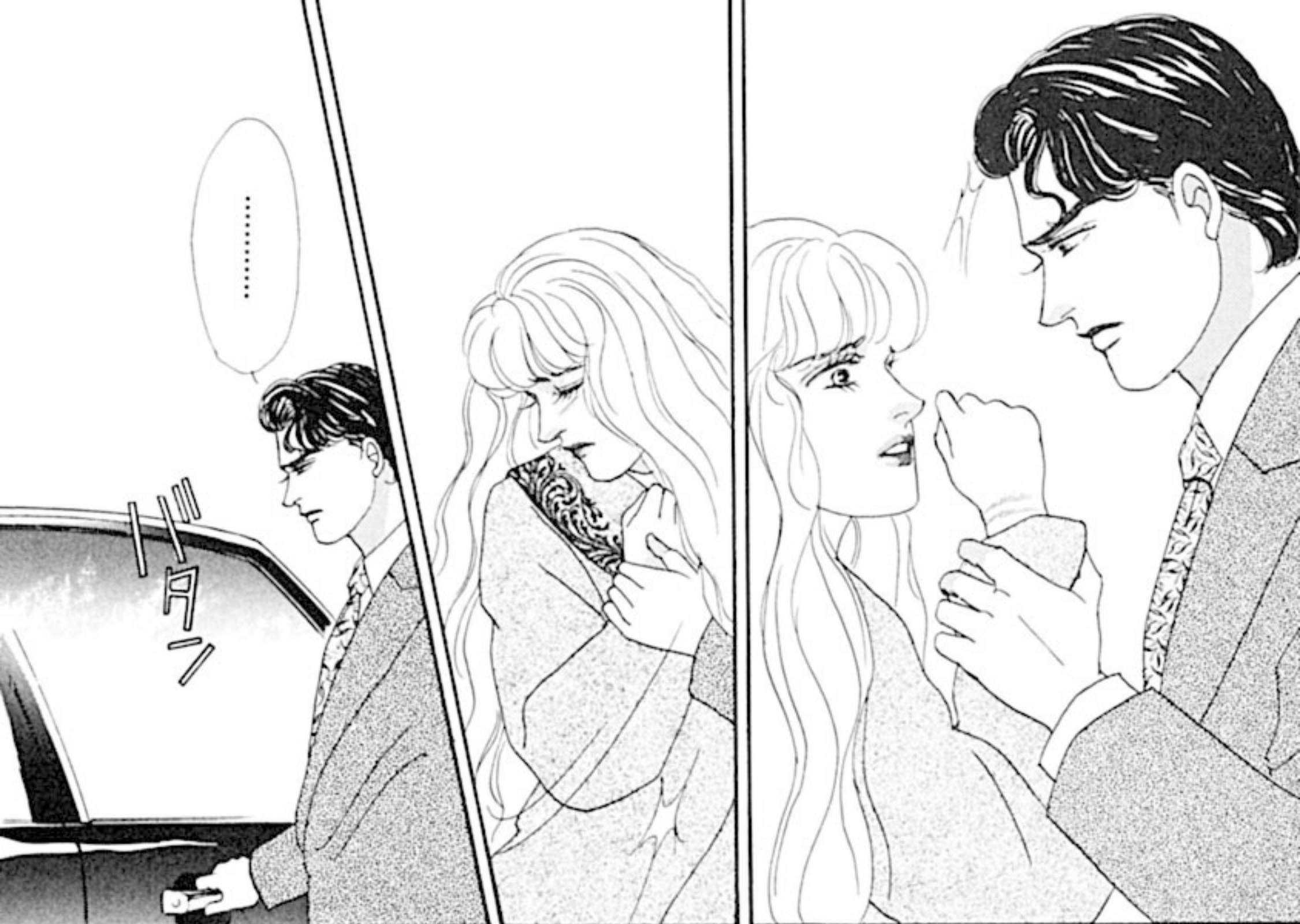
大丈夫ですか？

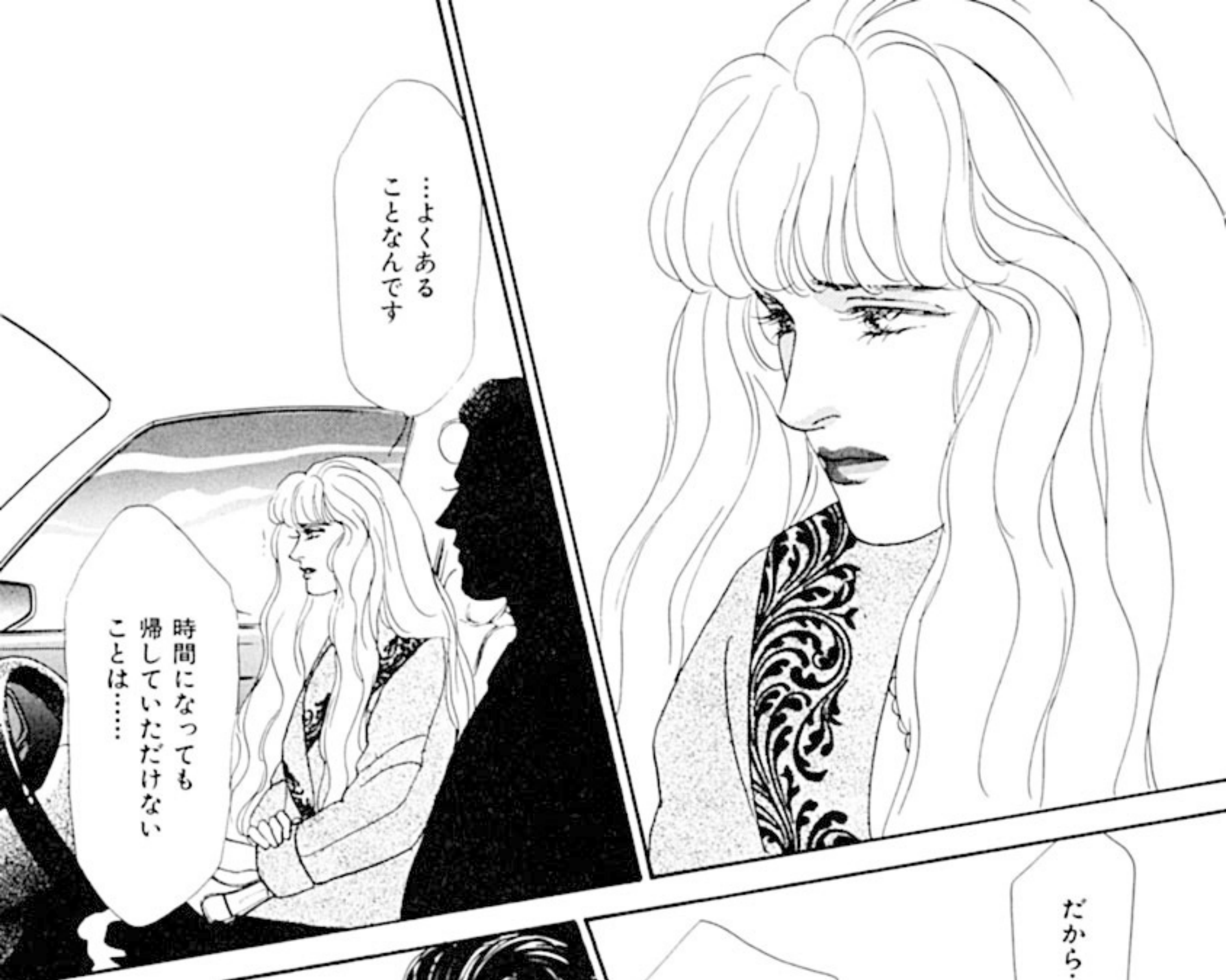


ええ

少し気分が  
悪くなっただけ







…よくある  
ことなんです

時間になっても  
帰していただけない  
ことは……



だから……

だからもう  
迎えになんか  
いらっしやらないで  
ください





どうかしてるわ  
私…

でも…  
香坂さんにだけは  
見られたくなかった

あの  
忌まわしい時間を  
持った後の自分を—


本当は

先生に頼まれて  
来たなんて  
嘘なんです


先生は  
今夜 会合があつて  
もっと遅くならないと  
戻れない

だから  
僕の—





あなたが  
好きです



だから

あなたの…  
すべてが  
知りたかった

あ…ッ





…めて

やめてください  
香坂さん

あなたを  
初めて見た時から

ずっと  
惹かれていた

あなたは  
今まで  
僕が見た  
誰よりも  
美しい

やめて…！

今まで私が  
何をしてきたか  
ご存じのはずなのに…

知って…  
います

先生から  
聞きました







え？



深雪は  
ひと月に何度か  
夕方出かけて  
深夜に帰ることが  
ある

あれには私が  
次期総理の座に着く為  
に一番役立つ仕事を  
させているのだ



つまりあれを  
財界の連中に抱かせ  
その見返りとして  
私は  
多額の政治資金を  
手に入れている

昔はあれの母親の  
役目だったが  
神経を病んで  
入院して  
しまったのでな



母親の入院費と  
自分が生きていく為の  
金が欲しければ  
代わりに努めろと  
言っただけなのだ

実の  
お嬢さんに…

そんな